

# サロンあべの

## ウイズ東淀川

共に学び、共に語り、共に遊んでみませんか

〈サロン・あべの〉9月の出会い

会いは、平成17年9月17日(土)

午後1時から育徳コミュニティ

ティーセンタ―2階研修室で、

「ウイズ東淀川」代表の鈴木昭二

さんをお迎えして、東淀川区でのサロン活動についてお話を伺いました。

### ・自己紹介

現在は、本業の他に地域で視

覚障害者のガイドヘルパーの講師などで、学校に出かけたりしている。生まれは、昭和25年3月。ちょうど団魂の世代。高校を



「すばらしい出会い」がたくさんありました。そしてこれからも・・・と、鈴木さん

# サロンよいばとこ、 こんなとこ

卒業して車が好きて車のセールスの仕事をしていた。ボーリングにもよく行っていた。普通の生活をしていたが、突然、目に出血を起こして近くの眼科に行つた。が、大病院で眼の難病であると診断された。そのうちにだんだんと病状が悪化して昭和48年の暮れに大きな発作を起こして、ほとんど見えなくなった。その間、父親が自分の視力回復のために神仏に頼つても、と精一杯やつてくれた。その姿に励まされた。しかし、精神的な不安で不眠も重なり、病院に4ヵ月ほど入院した。退院後はリハビリをするために、ライトハウスに入所した。歩行や食事、布団のたたみ方など日常生活の訓練を受けた。その生活にも徐々に

慣れて、自宅から通所出来るようになった。次に、鍼灸・マッサージの免許を習得して社会復帰をするために盲学校に通った。昭和54年に開業して今にいたっている。

#### ・人との出会い

ライトハウスに通っていた頃、視覚障害を持った指導員と出会い、職業を身に付け自立することを考えた。自分の可能性を広げていく目標ともなった。盲学校に通っていた頃、自分一人です通学していたが、手引きをしてくれた女性との出会いがあり、後にその人と結婚した。

#### ・活動のきっかけ

「ウイズ東淀川」の発足は、平成6年7月。今年で11年になる。平成6年3月に講習会のイベン

トが4週に分けてあり、そのスタートから「サロン・あべの」の活動や市社協の話を聞いて、東淀川にもと、思い立った。「ウイズ東淀川」のネーミングは「共に語り、共に遊び、共に地域で暮らす」という思いを込めて「ウイズ」とした。(「サロン・あべの」

の一番弟子になりたかったが、「サロン・淀川」が平成6年6月に立ち上げていたので、ウイズは東淀川の総本家を名乗っている。

ウイズの開催は、2カ月に1度なので、最初はできるだけ著名な人をパネラーにしたい、多くの人来てもらいたいと肩力が入っていた。初めてのウイズ開催時は、地域でコミュニケーション誌を発行している方に来ていただいた。また、病院の牧師さんを招いた時は、80人くらいの参加者があり、うれしい反面、講演会になってしまった。参加

者の人数が問題でなく参加者同士の交流が大切だと思っている。

#### ・活動内容

他区のサロン活動とは違う特徴を出したかった。1999年

3月に東淀川視覚障害者協会創立25周年記念事業でオーストラリア研修旅行(「ウイズ東淀川」紙43号に詳しく掲載)に行ったことが良かったので、もう一度視覚障害者主体の海外研修旅行を開催したかった。それで、2001年4月3日〜8日に「ウイズ東淀川」で企画した。「ときめきニュージールランド・わくわくコミュニケーション海外研修旅行」と銘打ってニュージールランドに行くことになった。ツアー参加者12名、一人15万円4泊6日の旅になった。リングやキューイ、チョコレートを食べたり、真鯛釣りや牧場での乗馬などを

楽しく体験した。また、「サロン・つるみ」や「サロン・淀川」の合同企画で動物園の見学やビール工場の試飲会などにも行った。区民祭りには、マッサージサーブिसで参加している。各地域で一サロンとして活動するのも大切だが、これからはサロンの隣組同士の交流をもっと深めていきたい。サロンスペシャル(2002年9月22日〜23日、市内のサロン8グループが大阪市立塩染荘で一泊2日の交流会を持った)のような活動を通じてさまざまな人と出会い、活動から生まれてくる新しい輪を作るのが楽しみ。

休憩後のわずかの時間でしたが、鈴木さんはギターとハーモニカ演奏で、歌う、1人三役の活躍でお得意の歌を披露。吉田拓郎、雪国やイエスタデーの賛歌、酒と泪と男と女、シクラメン

の香り、また会う日まで、などオリジナル・自作・替え歌を取り混ぜての熱演でした。

鈴木さんはいろいろなところで、いろいろな人と「すばらしい出会い」があったから今がある、と。では、参加者自身はどのような「すばらしい出会い」が・・・今日の感想と合わせて、お聞きしました。

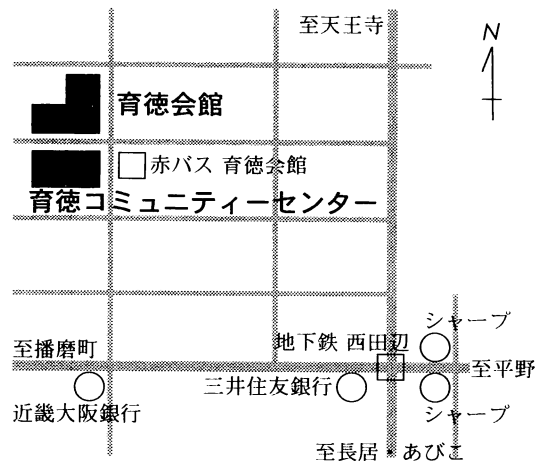
★ それにしても、いろんな人に出会えるというのはよいことですね。

★ かなり昔、平成元年ころだったでしょうが、環状線の電車の中で、結婚式を挙げるというテレビの企画があって、新郎新婦の鈴木さんにお会いしたのが最初でした。そしてもう一つ、〈サロン・あべの〉の出会いに参加しているとき、センスの良さを認め

## お知らせ

### <サロン・あべの>11月の出会い

日 時…11月19日(土) 午後1時～4時  
 内 容…サロンよいところ、こんなところ  
 サロン・つるみ  
 ～みんなちがって、みんないい～  
 お客さま…池田美仁さん([サロンつるみ]代表)  
 場 所…育徳コミュニティセンター2階  
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)  
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
 TEL. 06-6621-1901  
 最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」  
 赤バス「育徳会館」下車すぐ  
 会 費…なし  
 問い合わせ先…  
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



★ 想像していなかったギターが聞けて楽しいでした。ぜひ目を改めて、弾き語りをタップリ聞かせてほしいものです。

★ 「サロン」に参加していると、さまざまな人と出会えて、得した気分になります。

★ 「サロン」が阿倍野にしかなく、東淀川やいろんなところ、70年代のフォークソングが懐かしかったです。

## 秋の楽しみ

爽やかな日々となってまいりました。この時期の楽しみと言えば、スポーツや文化、芸術、そして秋の味覚などがあります。が、中でも夜長を楽しめるのは読書かもしれません。「さろん文庫」にも寄贈された多くの本があります。その中には、サロン紙で紹介(左頁)しています音訳テープもありますが、その一部がCDを超える高音質のデジタル録音の「ディジー」になりました。これは毎月の「サロン・あべの」紙や文庫の音訳テープを作成して下さっている音訳ボランティアグループ「糸でんわ」さんより提供していただきました。1冊の本を録音テープに収めると何巻にもなりますが、このディジーでしたら1枚です。郵送も簡単です。また、収められた内容のどこからでも頭出しが出来て、聴き始められます。しかし、CDプレーヤーでは再生出来ません(CDプレーヤーを破壊します)。ディジー録音再生の専用機器か機器内蔵のパソコンでしか聴けません。もし、ディジー録音再生機器かパソコンをお持ちの方、一度、お聴きになってください。

ディジー録音された図書は、次の5点です。「たまごが ポン! (44分)・稲垣恵雄 著」「奥田真祐美のシャンソン手帳(4時間48分)・奥田真祐美 著」「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野(2時間48分)・難波りんご 著」「セルフヘルプグループ(3時間44分)・岡知史 著」「金子みすゞへの旅(3時間13分)・島田陽子 著」。(け)

.....さきみみずきん

およそ12年前、大阪市の重症心身障害者福祉事業のひとつであった「ふれあい空の旅」に随行医師として私が参加しました。カリ

フォルニア州北部のバークレー市でプール付きホテルに3泊していました。この事業の初回でしたので参加者全員わくわくし、やや緊張した雰囲気でした。肌寒かった日にもかかわらず、夕食前にプールへ行こうかと誘いあつて、行ってみると、上平幸雄さんと私の2人だけでした。上平さんは下肢にまひの障害があり、私は参加者たちの安全のため、寒さを我慢してプールに行きました。しかし、泳ぎ始めたら彼は私よりはるかに速く、かつスマートに泳ぎました。すご

く驚きました。彼の話によれば、13歳までは重い障害を持つていながらも、不自由ひとつ感じずに過ごしました。その後、障害者と言われ、初めて自分が障害者だと認識させられました。彼は努力家で、現在、府の有能な幹部の一人になっております。(「サロン・あべの」のことを彼から紹介され、彼の活躍を見て、尊敬の念を抱かずにいられませんでした。「障害」と「不自由」は別物だと彼に教えていただきました。感謝しております。(周山逸人)



声で読書のお手伝い

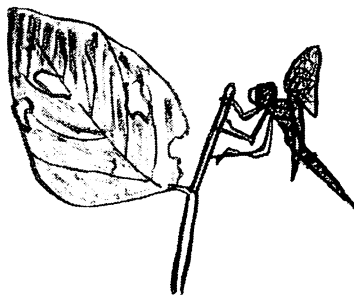
音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第231号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第231号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳※)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧ロー二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳※)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソソ手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳※)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳※)
- (p) 「猫とシャンソソ」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳※)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送6月26日と9月18日)の録音テープご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後の※印はディジー録音

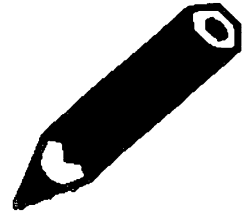
メールもいいけど、  
手紙もネ。



サロンの  
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

21



## 邦子、 …ん歳の手習い。

### 障害者の自立生活

#### 「日本の自立生活運動の原点」

全国自立生活センター協議会代表の樋口恵子さんは、「自立生活運動と障害者文化」（現代書館、2001年）の中で、「青い芝の会（57年誕生）」が同窓会的な親睦団体から、次第に脳性マヒ者の全国的な集まりとなり、日本の自立生活を最初にひっぱってこられました」と語っているように、青い芝の会の運動は日本の自立生活運動の一つの原点であると考えられます。

1957年に東京で結成された青い芝の会は、親睦的な団体でしたが、70年に起きた横

浜の障害児殺しの母親への減刑嘆願運動に対して、神奈川県青い芝の会が殺される側の立場からその減刑嘆願阻止運動を展開していくのを転機として全国的な運動となっていきました。また、72年に国会に提出された優生保護法改訂案の14条4項には「その胎児が重度の精神または身体の障害の原因になる疾病または欠陥を有する恐れが著しい」と認められるものに對して人工中絶を認めるという条項があり、神奈川県青い芝連合会は、その条項は身体障害者の生存権を否定しようとするものとして断じて許容できないという理由で、優生保護法改訂案反対運動を展開してゆきました。その後、73年にこの改訂案は廃案になりました。

青い芝神奈川県連合会は、優生保護法改訂案が国会で提出されると同時に、72年3月から映画「さよならCP」上映運動を展開してゆきました。映画「さよならCP」は脳性マヒ者の生きざま、脳性マヒ者の存在を拒絶する現代の都市構造などを映し出した映画で、その上映会には障害者が講師として参加し、優生保護法改訂案や障害者問題について議論されました。この上映会は全国に広がっていき、ありのままの障害者の姿や「障害があつて何

が悪い」という訴えは参加者に衝撃と感銘を与えていきました。

関西では「さよならCP」上映運動は、72年7月から始まりました。その中心となっていた河野秀忠さん（現在、「そよ風のように街へ出よう」の編集長）は、「当時は、公民館で映画の上映会をするというだけで、人が集まる時代で、100人から200人集まることもあり、勘違いして観にくる人達も、ほとんどが上映後討論会に残っていた」と当時の映画の反響について語っておられました。そして、その上映会に参加した障害者や健全者の中から、青い芝の会の運動に参加していく人達も多かったということです。

神奈川県青い芝からは運動の中心を担っていた故横塚晃一さんが関西の上映運動のために派遣されました。横塚さんが、「障害者の考え方がゆがんでいると言われているが、これだけ差別を受け入れていけばゆがむのは当然のことである」ということや「障害者自身の声で、権利を主張し、自己主張しなければならぬ」ということを若い障害者に話しているのを河野さんは聞き、すばらしいと思います。「障害者はそれまで疑問に思っていたこ

と、その時代の中でできないと思っていたことがあったが、そこに横塚さんといういいリーダーが現れて映画という非常に伝わりやすい媒介を得て、関西では運動が展開されていた」として、「障害者も自分もびかびかに輝いていると実感できた」と河野さんは当時を語っています。青い芝の運動は、特に若い障害者に感銘を与え、73年には大阪青い芝の会が設立され、続いて、兵庫、奈良、和歌山でも設立されていきました。大阪では、青い芝の運動も高揚期、混乱期、再生期を経て、今の自立生活運動につながっていったといえます。(定藤邦子)

ありがとうございました。

カンパ、お茶・お茶菓子などの寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

大谷美津子、奥田久子、小西京子、近藤千枝子、富田万里子、平岡太、藤井さゆり、藤田春、真殿香與女、道川内喜美子、山元洋子、その他の方々。(敬称略)

10月は四季を通して最も良い時候なので、文化祭や運動会などいろんな催し物が開かれる。10月といえば、また秋祭りのシーズンでもある。私の住んでいる永和地区周辺でも毎年10月15、16の二日間にわたって秋祭りが行われる。

ドンツク ドンツク  
ク ドーンドン  
ドンツク ドンツク  
ク ドーンドン

10月に入ってまもなくすると、近くの山車小屋から鉦や太鼓の音が聞こえてくる。毎年この頃になると、地区の青年たちが集まって本番に向けてけいこをするのである。私は山車に乗ったこともないし、山車を引っ張ったこともないが、今でも山車の鉦や太鼓の音を聞くと血が騒ぎ、肉躍るのである。いつの時代でも山車や御こしは祭りに

は欠かせないもので、誰もが待ち望んでいる。

歳時記によると、本来は5月15日の京都の葵祭を指して祭りといい、その他諸社の祭りを夏祭りといってきたが、現在では夏祭りを総称して祭りといい、春祭りと秋祭りとはに区別している。そして陰祭り(かげまつり)は隔年に行う本祭りに対して、例祭をしない年の小祭り(こまつり)とに分けられる。

ドンツク ドンツク  
ク ドーンドン  
ドンツク ドンツク

ク ドーンドン

今年もまた山車小屋から鉦や太鼓の音が風に乗って聞こえてきた。本祭りの10月15日に私は久しぶりに童心に戻って山車の後ろからついて行きたいと思っている。

晴れのち晴れ 85

秋祭り

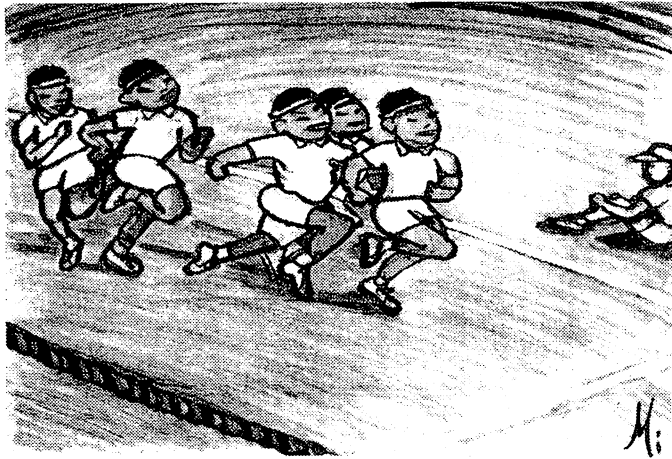
稲垣 恵雄



## ビデオと写真

下の子どもが生まれたときに買ったビデオカメラ。それから二年もたたないのに、ほとんど棚の上で眠っている。

今日は、子どもたちの運動会で久しぶり



に、そのビデオカメラを出してみた。しかし、すでにどうやって操作するのか、思い出せない。とうとう面倒になって棚の上に戻してしまっただが、自宅を出る直前になってやっぱり気が変わり、リュックのなかに入れてもってきた。

そこまでは良かったが、テープが回り始めて数分もたたないうちに電池切れになった。長い間、充電もしないで放っておいたのだから無理もない。それでも、大きな失敗をした気持ちにはならなかった。正直いって、もうどうでも良くなっていたのである。

二年前、三年前の運動会は、砂ぼこりをかぶりながら、汗まみれになって録画していた。炎天下の熱がわざわいしたのか、そのときのビデオカメラは、運動会の撮影中に故障してしまい使えなくなった。実際に目のまえに広がる光景に直接、目を向けることなく、小さな液晶画面だけを背を丸めてのぞき込んでいた。おかげで腰が痛くなった。

そんなにも無理をして撮影した数年前の運動会だったが、録画したものを何度も見えない。実家の両親に送るためにテープのダビングをしたのだが、そのときにテープの長さを気にしながら見ていた記憶はあるが、それ以降はどこにテープがあるのかもわからない有り様だ。

テープに私が関心を持たなくなったのは、どうしても思い始めたからである。音が出ないだろうと思いはじめたからである。音が出ても、絵が動いても、やはり小さな箱のなかで絵が動き、音が鳴っているものでしかなく、太陽に焼かれた熱い砂の臭いもなく、手を伸ばせば届く子どもたちの腕もない。ビデオのスイッチを切ってしまうえば、それだけで跡形もなく消えてしまう幻のようなものなのだ。

一方、私の部屋には四年前に、上の子どもと乗った船の写真がある。まだ小さかった子どもの肩に私が手をのせて笑っている。使い捨てのカメラで撮った写真ながら、とても気に入っている一枚だ。

私には不思議なことに、音も出ない動きもしない写真のほうが、ビデオよりも過ぎ去った時間を印象的にしてくれるようだ。な



重症心身障害児者施設建設支援のための  
チャリティコンサート

■幸せは優しい音色とともに■

住み慣れた街で普通に暮らしたい、そんな願いに  
応えるための拠点として、大阪市で初めての  
施設が建設されることになりました。しかし、建  
設にいたるまでの道のりは厳しく、これを支援  
するためにチャリティコンサートを開催します。

- \*日 時；平成17年11月6日（日）  
午後1時30分～4時  
（12時30分開場）
- \*場 所；メルパルクホール  
大阪市淀川区宮原4-2-1  
TEL06-6350-2111  
地下鉄御堂筋線「新大阪駅」4番  
出口、屋根付き歩道橋を渡る。徒  
歩5分
- \*参加費；2000円、
- \*出演；大阪すみよし少年少女合唱団  
明浄学院高校吹奏楽部  
帝塚山スタジオ（フラメンコ）  
夕陽丘高校音楽科、同校OB
- \*主催；南大阪療育園新施設建設資金協会  
○問い合わせ・チケットの申し込み；  
チャリティコンサート実行委員会  
事務局（成田、清水）  
〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
TEL06-6624-2555  
FAX06-6624-2556

ぜだろうと考えてみると、いくつか思いあた  
る。  
一つには、写真は一瞬の光景しか記録して  
いないので、見てしまえば、それで終わりで  
ある。見たあとは、自分が覚えていることを  
頭のなかで再現できる。ああだった、こう  
だったと振り返ることができる。写真を背景  
にして、自分が主人公になり、さまざまなか  
とを思い起こすことができるのである。

それに対して、ビデオは見ているだけで、  
せいっぱいである。次から次へと絵が変わ  
る。音も変わる。会話があれば、それを聞い  
てしまい、それに引き込まれる。ところが、  
当然のことだが、その会話には決して加わる  
ことができない。写っている人の表情もたえ  
ず変化していく。「ああ、こういう表情をし  
ている」「こんな顔になった」と変化を追う  
ことはできるが、ただそれだけであって、私

の言葉や働きによって、その表情が変わるわ  
けではない。つまり、それらはすべて終わっ  
てしまったことであって、私が関わる余地は  
全くない。その意味で、ビデオを見ている私  
は完全な傍観者である。  
たぶん、こんな理由から、私はビデオに飽  
きてしまったらしい。音が出るのはやはり魅  
力だが、じつと見ていると、どうしても退屈  
してしまうのである。

（知）

赤松 昭

「谷間」に  
こだわり続けて

17

「司法と福祉の谷間」(その2)

刑事裁判は国が加害者を裁くものですが、被害者が加害者に被害の回復を求めて起こすのが民事裁判です。なぜ、被害者が民事裁判を起こすのかというと、加害者が刑事で有罪になったからといって、被害者の現状が元通りになるわけではありません。障害をもった本人と家族が、事故後、生きていくためには、それに見合った補償が必要です。こうした補償は、慰謝料、介護料という形で加害者側の保険会社から出るわけですが、当然、その会社は支払う金額を低めに抑えようとしています。

それに対し、原告である被害者側は「この額では到底足りない」ことを主張し、その意見が対立する時、裁判にいたるわけです。

ところが、法廷を司る判事はもちろん、原告側の弁護士も含め、凡そ法曹に関わる人たちは介護・地域で暮らす障害者の実態をよく知りません。だから被害者側はまず、自分が依頼した弁護士を納得させるための資料作りから始めなければなりません。重度の身体機能障害がある場合、ヘルパーによる移動、入浴介助は一人ではなく二人は必要、褥そう防止のためのエアマットも必要、車いすも既製品ではなく体幹保持装置のついたオーダーメイドでなければダメ等々。こうした項目をひとつひとつ積み上げて、はじめて法廷という俎上に上ることができるのです。

しかし、こんなに苦労したとしても、ほとんどの交通事故に関わる裁判では、裁判官は介護の現場を見ずに判例で定額化している相場で、介護料や慰謝料を算定します。被害者側はこれに対して、「そうじゃないんだ」と抗弁するわけですが、今度は逆に加害者側が「障害者の平均寿命が短いこと」といったことを理由に、補償額の切り下げを主張してく

るのです。あるケースでは保険会社側の証人として、某大学の医学部教授が意見書を出してきました。その教授は本人を直接診察したわけでもないのに、勝手に「このケースはそう長くは生きられない」と意見書の中で言い切っているのです。でも、病院の中で患者しか診たことがない、在宅医療にも関わったことがない大学医学部教授が、地域で暮らす障害者の余命まで一体どういう根拠で判断することができなのでしょう。しかし、こういった被害者側からみて到底納得できない意見証拠も、法廷の場では学会の権威が出てきた「専門的見地」として採用され、公判で効力をもつことになってしまうのです。

次回は、それでもなぜ、被害者家族は裁判にこだわるのか、についてお話しします。



# 美智子のこんな話

岸田美智子

## 障害者の自立感について

朝夕めつきり、やっと涼しくなってきました。秋を感じる今日このごろですが、秋といえば食欲の秋や、行楽の秋などと言われ、障害者も車いすで外出しやすい季節です。そして、読書や勉学の秋でもあると思います。

私も最近、「自立生活センターくまいどく」でもう15年以上、仕事柄入所施設障害者の皆さんの自立支援に関わってきましたが、一体自立って何だろうと改めて考える日が多くなっています。例えば、市内に出来た新しい入所施設では、外出も自由だし、門限もありません。食事は美味しく、地域の人たちもフラッシュと入ってこれる喫茶店もあります。そして、お豆腐を手作りしたり、自然食にこだわったメニューもあります。全室個室です。毎月、行事も多く、旅行もあるそうです。職員意識も高く、なるべく早く利用者を地域に

帰そうとグループホームでの自立体験や自立生活プログラムにも積極的に取り組んでおられます。この利用者の多くは人間関係に不満はあるものの満足しておられます。また、ある利用者は、毎月5万円ぐらいをお小遣いとして家族からもらって(もちろん、障害者年金からですが・・・)家族が面会に来た時も出かけたりして、外出も多く、このお小遣いの額では足りないとはやかれていました。

このような入所施設の実態はまだ少ないかもしれませんが、とても疑問に思ってしまう目指すためには、逆に地域での自立生活のしんどさを伝えねばならないというねじれた現象になってしまっています。

地域での自立生活ならば、毎月旅行なんて出来ないし、毎月5万円のお小遣いなんて考えられない状況が多いのです。なおかつ、住宅事情は車いすでは、利用しにくい住宅がほとんどであり、何を目指して地域に出てくればよいのかまた、出てくるべきなのが見えなくなっています。でも、施設の中の利用者

の多くが一人で外出を決めたり、行き方を決めたりすることがほとんど出来ません。もちろん介助者に自分の介助を頼むことも苦手で、何を食べたいのか、また、それをどうやって作るのかなども介助者に伝えることが出来ません。このようなことは、制度や設備をいくら整えても逆に自立して生きていく力、つまり、自己決定、自己選択する力を奪っていくことになりかねない恐ろしさを感じます。

一体、良い入所施設とは、どのような施設なのか!?

そして、また、自己決定、自己選択をしていく力を奪われたのは、障害者だけでなく、健常者の皆さんにも広がっている問題ではないでしょうか?

秋の夜長に、皆さんも考えてみてはいかがでしょうか・・・。

### ○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MY・DOくまいどく  
〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

Eメール cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

【手作りにチャレンジ】

今回は、ニオイをとる毛糸を紹介します。

★マイトイレ・マイルームをよりかわいく、楽しく、清潔に・・・

・ペットやトイレ、汗などのアンモニア臭をすばやく消臭します。

・生ゴミから生じる腐った魚のようなニオイを放つアミン系の成分を吸着します。

★効果 え！こんなにすごいの？

・本当にとれるの？ --  
トイレの臭気は4～6PPMですが、100PPMを約1時間で吸収します。微臭のトイレやお部屋(6畳)の場合、1～2玉でOK！

・作品は臭わないの？ --  
吸収したニオイを分解しま

す。だから作品は臭いません。  
・活性炭の4倍？ --  
ヤシガラ活性炭の4倍以上

の吸収力があります。

・半永久的効果？ --  
消臭機能が繊維に練り込まれているため、半永久的の効果があります。

・干すだけで回復？ --  
天日干しで80%、洗濯後すぎ水の中に少量の酢を入れると100%回復します。2週間毎くらいに天日干しすれば、消臭機能が維持されます。

★あなたのお得意コースは？

・ボンボンで --  
市販のボンボンメーカーを使えば簡単  
・かぎ針で -- 7号・8号  
・棒針で -- 10号

(毛糸1玉40g 390円)

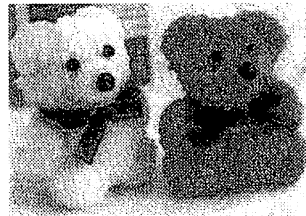
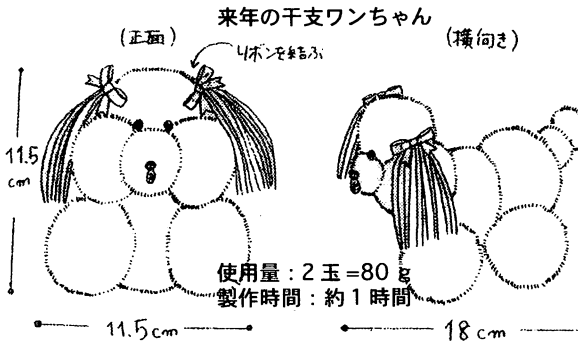
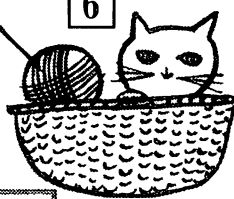
.....  
まったく初心者も男性もOK  
池内が指導します。

ひとつずつ  
ひとつだけの世界 6

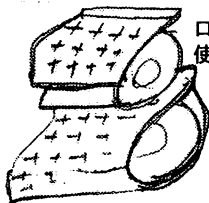
毛糸

——ニオイを取る

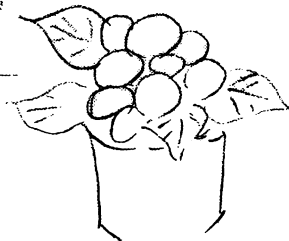
池内沙織



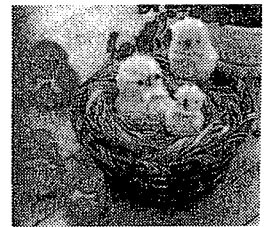
くま1頭  
使用量：80g



ロールカバー  
使用量：80g～100g



花束  
残糸で、直径2～4cmくらいの  
ボンボンを7～10個ほど束にする



ひよこ1羽  
使用量：20g



Yuimari

ゆい・まある (沖縄の方言)  
つながり・助け合い・お互いさま

一問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織一  
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上101  
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115  
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp



SALOON

随組ニュース

11月はどこのサロンの、どのテーマが  
お気に入りですか。いい出会いませんか。

■「サロン淀川」11月の出会い

日時：11月20日（土）午語1時30分～4時

内容：モンゴル馬頭琴の調べ

～馬頭琴を通して多くの人との出会いを～

会費：なし

場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」

[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー

ロー）☎06-6394-2900

E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」11月の出会い

日時：11月12日（土）午後1時30分～4時

内容：みんなで、折紙を楽しもう！

会費：なし

場所：西区在宅サービスセンター6階

ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14（西区役所隣）

地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ

☎06-6539-8075

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」11月の出会い

日時：11月26日（土）

内容：未定

参加費：未定

問い合わせ先：中本勝也

☎090-9864-9678

河合

☎06-6472-1571

■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時：11月13日（日）午後1時30分～4時

内容：未定

パネラー：未定

会費：なし

場所：東淀川区民会館4階・会議室

問い合わせ先：鈴木昭二

☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン・いたみ」11月の出会い

日時：11月19日（土）午後2時～

内容：年賀状の書道

指導：山岡美代子氏

会費：なし

場所：伸幸苑[伊丹市寺本6-150]

問い合わせ先：黒野富美子

☎072-781-3549

サロンの 絵はがき

5枚1組 180円

# 童謡・唱歌に モチーフをとった 「絵はがき」 を創りました。

- ・ 青い目の人形
  - ・ モーツァルトの子守歌
  - ・ 1年生になったら
  - ・ おべんとう
  - ・ 仲よし小道
- もらった人も、思わず、  
歌いたくなる、うれしい、  
楽しい「絵はがき」

## サロン20周年記念 童謡♪絵はがき

■ 5枚1組 ¥180



え：石田美瀬子

### 寄りみち



前号の「20年の歩み」に、ほぼすべてのサロン紙をホームページ上に載せることができました。と、あります。サロン紙にすればざっと3千ページになろうかという膨大な量。改めて（知）さんのご苦勞を思い知りました。編集に携わる者として、身の引き締まる思いと、同時に気を引き締めねばと思いました。本紙奥付にあるアドレスか、「サロン あべの」「サロン・あべの」を入れると、地球の果てからでも、すべてのサロン紙を簡単に読むことができます。（石）

<サロン・あべの>VOL. 232 発行：平成17（2005）年10月15日 定価¥100  
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美瀬子  
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます